

BY BLUE

2005

VOL

16

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌 バイブルー



風景

春風や
堤長うして
家遠し

蕪村

「春の海終日のたりひねますかな」があまりにも有名な俳人、与謝蕪村は、一七〇六年、摂津国東成郡毛馬村(現・大阪市都島区毛馬町)の生まれ。つまり、新淀川と大川の分岐点辺りが蕪村のふるさとで、毛馬開門近くの淀川堤防上には生誕地碑と句碑が立っています。「春風や堤長うして家遠し」。蕪村が晩年に編んだ「春風馬堤曲」の中の一節であり、奉公先から毛馬の堤を通して里帰りする娘たちの心境に託して、自らの望郷の念を詠んだとされています。



おでかけインフォメーション

いい陽気になりました。みんなで出かけませんか。
(以下にご紹介しているのは予定です。日時・場所・内容等、変更される場合もあります。)



自然とあそぼう 滋賀県立びわ湖こどもの国

たくさんのお花や木、生き物が集う「びわ湖こどもの国」では、自然とふれあい、あそび催しを開催します。四季折々の生き物を観察したり、自然に関するクラフトなどを通して、自然のすばらしさをあらためて感じてみませんか？

- と き** 2005年 5月21日(土) 春の花とあそぼう
7月23日(土) 夏の水辺であそぼう
11月20日(日) 秋の木の実であそぼう
- 2006年 2月18日(土) 冬のいきものとあそぼう

と ころ 滋賀県立びわ湖こどもの国(入園無料)

お問い合わせ 滋賀県立びわ湖こどもの国 TEL.0740-34-1392
ホームページ <http://www.biwa.ne.jp/kodomo92/>

大和川・鯉のぼり祭り

子どもたちの健やかな成長を願うとともに、大和川に目を向けていただき、河川敷に親しんでもらおうと、平成8年から続けられている恒例のお祭りです。家庭で使われなくなった鯉のぼりを活用して行われます。さわやかな風に泳ぐ鯉のぼりの群れをご覧ください。

- と き** 2005年 4月15日(金)～5月5日(木・祝)
- と ころ** 柏原市片山～高井田の大和川水管橋
(国道25号線・天湯川田神社下がり交差点付近)

お問い合わせ 柏原市自治推進課 TEL.0729-72-1501

平成17年度助成対象活動募集

琵琶湖・淀川の水質保全に関わる活動に対し、助成事業を行っています。

助成の対象となる事業は以下の2項目です。

琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業

- ・地域に密着した身近な水質浄化事業
- ・水質浄化事業に必要な材料調達システム作り及び材料調達
- ・水質浄化事業におけるリサイクル推進事業
- ・上記に関連する研究

琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動

- ・水質の保全・改善に関する活動
- ・自然生態、親水、水源涵養の機能を保全・改善する活動
- ・水環境について知り、理解する活動

両助成とも1件あたりの助成金額は30万円程度。助成金の使途は、助成目的を満足させるものであれば特に制限を設けません。助成を受けた団体または個人の事務所そのものの運営に関する経費・人件費等は除きます。

申込受付期間 ～平成17年5月25日(必着)

助成を希望される団体・個人は、応募様式に必要事項をご記入の上、お申し込みください。各助成の応募には助成資格を設けていますのでお問い合わせください。応募様式は当機構のホームページからダウンロードできます。ホームページをご覧いただけない方は、お問い合わせください。

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部
TEL 06-6202-1267(代表) FAX 06-6202-1317

ホームページでもご案内しています。 <http://www.byq.or.jp/>

「動くものなら何でも食べる魚を食べる」

ブラックバス



(写真提供:滋賀県立琵琶湖博物館)

大人の拳を

飲み込むほどのオオクチ

釣りが趣味ではなくても、ブラックバスという魚をご存じの人は多いでしょう。ルアーフィッシング(疑似餌を使う釣り)の対象魚として抜群の人気を誇る一方、その動物食性から、在来種や生態系に影響を与えるとして嫌われ者の、あの有名な外来魚です。ブラックバスといえは一般的にラージマウスバスを指し(スモールマウスバスという種類もいます)、和名はオオクチバス。動くものなら何でも食べる。ほどのその口は体長50〜60センチメートルにもなると、大人の拳が入るほどです。

キャッチ&リリースならぬ キャッチ&イート

ルアーフィッシングの主流は、キャッチ&リリース。つまり、「釣ったら放

す。ですが、他方、キャッチ&イートという考え方も存在します。要するに「食べる」。釣った魚に対する礼儀として、あるいは、外来魚駆除を促進するためなど、理由はいくつかありますが、とにかく見かけによらずブラックバスは、なかなかの味だそうです。

焼く、煮る、蒸すから バーガーまで

バスは高級魚スズキの仲間、ヒラメやマダイに似た味だとも。黒っぽい魚体の中は白身で淡泊、脂肪量が少なく、疲労回復や肝機能回復に良いとされるタウリンを多く含んでいます。食べ方は、焼く、煮る、蒸すから、フライ、ムエル、南蛮漬け、薫製など、外来魚といっても日本の魚と同じです。もちろん刺身でも食べられますが、寄生虫がいる場合もあるようですから、熱を通した

方が無難でしょう。珍しいところでは、滋賀県立琵琶湖博物館にある「ミョージアムレストラン」にほのつみ」で、バス天丼やバスバーガーセトなどのメニューがあります。ぜひ一度、味わってみては——。さて、ここでは、釣り場やキャンプ場などの野外でも手軽にできる、ブラックバスのホイール包み焼きをご紹介します。まず、うるこ、内蔵を取り除き、頭を落として水洗いします。次に、塩、コショウをまぶし、バター、レモンニンニクと一緒にホイールに包みます。お好みで野菜を入れたり、醤油やマヨネーズをたらしても良いでしょう。そして、焚き火や炭火などで焼けば出来上がり。

琵琶湖・淀川流域はもちろんな今では全国に分布するブラックバス。まだまだいろんなレシピがあるようです。動くものなら何でも食べるのは、やはり人間の方ですね。

名称 / オオクチバス
(ブラックバス、ラージマウスバス)
学名 / *Micropterus salmoides*
目科 / スズキ目サンフィッシュ科
原産地 / 北アメリカ東部



(写真提供:淀川ネイチャークラブ 菊井睦夫)

朝焼けに染まる水面



羽を休める鳥たち



(写真提供:淀川ネイチャークラブ 菊井睦夫)

都会の光を映し出す干潟



帯状に広がる干潟

水と人との関わりを見つめる、世界の水辺から

十三干潟

大都会と共存する、小さな大自然

淡水と海水が混じり合う、淀川の汽水域
高層ビル群を背景に広がる、小さな生きた干潟
生物の楽園は、人間にとつてのオアシスでもありました

都心を貫く淀川は、 奇跡の川か

琵琶湖を水源に、瀬田川、宇治川と名前を変えながら流れ、桂川、木津川と合流し、やがて大阪湾へと注ぐ、淀川。湖から海まで近畿二府四県にまたがり、都心を貫く河川です。当然、生活・産業排水による水質の悪化など環境の変化にさらされながらも、今なお淀川は淡水魚類の宝庫。その種類の多さは日本一です。魚のほかに野鳥や昆虫、植物が数多く生息し、ヨシ原、ワンド群、干潟など、多様な自然環境が残されています。汚したり、壊したりするのも人間なら、それを元

シジミ、カニ、エビが住み、 トリやヒトも集まる干潟

淀川の下流約10キロは、大阪湾の海水が混じる汽水域。川の生物と海の生物とが同居しています。そのエリアの、新淀川大橋から十三大橋付近のヨシ原周辺にできる干潟が、十三干潟と呼ばれています。干潟とは、川から流れてきた砂や泥が長い年月を

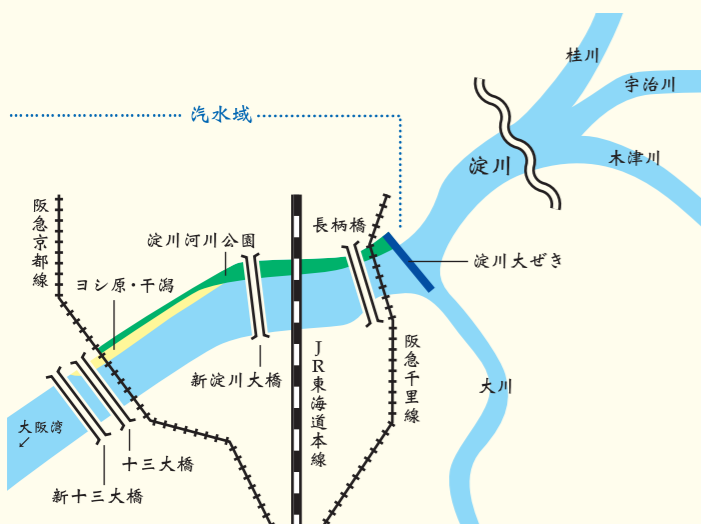
かけて溜まった場所で、干潮時に現れます。栄養分が豊富であることから、生き物たちの格好のすみかです。ここでは、ヤマトシジミや泥の上をばうカワザンショウガイという貝類をはじめ、ヨシの根茎の間に穴を掘ってすむクロペンケイガ、アシアシムガ、ヤマトオサガニ、ゴカイなどがいて、それらを餌にしようとしギキやチドリ、またシジミを狙ってヒトまで集まってくる鳥たちがやってくる間に、干潟の表面に無数のカニの巣穴を見ることが出来ます。川の中に目を移すと、ミナクラゲが漂い、スキヤボラ、ファミリーフィッシングの対象魚として人気の高いハセも泳いでいます。岸辺に広がるヨシ原の向こうを見れば、林立する高層ビル群。まさに大都会の足元にある、小さな大自然といった趣です。

川本来の魅力と触れ合う 場所

その昔、私たち日本人の生活は川とともにありました。川の周りに人が集まり、川と向き合つて暮らしながら、生活や文化が

川で遊ぶときの注意

- 子どもたちは、大人の人と一緒に。
- 雨の日や風の強い日は、川で遊ばないように。また、晴れの日でも前日が雨だったり、遊んでいる場所が晴れていてもその上流が雨なら、急に水かさが増すなど大変危険です。
- 浅いところでも急に深くなっていることがありますし、ゆるやかな流れでも水の力は強いものです。よく注意してください。
- 泥の上などは、足を取られやすいので特に注意が必要です。



敷き詰められたような貝殻



向こうは大阪・中津付近の街並み



干潟は鳥の楽園



(写真提供:淀川ネイチャークラブ 菊井睦夫)



「BYQネットワーク交流会2005」を開催しました



BYQネットワーク交流会2005開催状況



交流会に参加した市民団体の旗を流域地図に立ててもらいました



基調講演(澤井健二氏)



活動報告・発表会



活動報告・発表会



BYスタンプラリー最多スタンプ賞の表彰式



ミニコンサート



ミニコンサート



交流会

- 参加・協力いただいた市民団体一覧
 安威川の自然を守るネットワーク (大阪府茨木市)
 天の川を清流にする会 (大阪府枚方市)
 有栖川を考える会 (京都府京都市)
 猪名川・神崎川水質研究グループ (兵庫県川西市)
 鶴殿(うどの)クラブ (大阪府高槻市)
 NPO法人「ええことネット」交野ケナフの会 (大阪府枚方市)
 NPO法人 大阪水都再生基金 (大阪府下)
 NPO法人 大阪・水かいどう808 (大阪府下)
 カップ研究会 (京都府京都市)
 桂川流域ネットワーク (京都府京都市)
 NPO法人 蒲生野考現倶楽部 (滋賀県日野町)
 鴨川を美しくする会 (京都府京都市)
 川西自然教室 (兵庫県川西市)
 川の会・名張 (三重県名張市)
 NPO法人 環境教育技術振興会(CAN) (大阪湾沿岸)
 きしわだ自然友の会 (大阪府岸和田市)
 NPO法人 近畿水の塾 (大阪府大阪市)
 草津塾 (滋賀県草津市)
 クリーン白川の会 (京都府京都市)
 近木川流域自然大学研究会 (大阪府貝塚市)
 子どもと川とまちのフォーラム (京都府京都市)
 NPO法人 子どもネットワークセンター天気村 (滋賀県草津市)
 白川源流と疏水を美しくする会 (京都府京都市)
 高槻市河川道路環境安全を守る会 (大阪府高槻市)
 ねや川水辺クラブ (大阪府寝屋川市)
 東近江水環境自治協議会 (滋賀県安土町)
 NPO法人 人と自然とまちづくりと (近畿一円)
 人を自然に近づける 川いい会 (大阪府茨木市)
 日野川水辺の会 (京都府京都市)
 ひらかた星垂の会 (大阪府枚方市)
 NPO法人 琵琶湖ネット草津 (滋賀県草津市)
 NPO法人 びわこ豊穡の郷 (滋賀県守山市)
 琵琶湖・淀川水系を考える会 (大阪府大阪市)
 ふるさ都・夢づくり協議会 (大阪府大阪市)
 街の探検隊 (京都府京都市)
 水と文化研究会 (滋賀県志賀町)
 明神川美化保存会 (京都府京都市)
 メダカの学校 小田分校 (滋賀県近江八幡市)
 大和川を守る会 (大阪府大阪市)
 里山保全活動団体 遊林会 (滋賀県東近江市)
 淀川愛好会 (大阪府寝屋川市)
 淀川さくら街道ネットワーク (大阪府大阪市)
 淀川水系の水質を調べる会 (大阪府大阪市)
 レイクポイント・カヌークラブ (滋賀県高島市)

Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

Q	A
参加して良かったことは・・・	<ul style="list-style-type: none"> これまで、こういう機会を期待していました。 本当に多くの活動グループの情報を得られ有意義でした。 淀川流域で活動されている団体が多くあることを知り、自分たちの活動にも参考になった。 とても有意義であった。BYQが支援に回り、黒子に徹していることがすばらしい。全国に誇れるのでは? 楽しかった。住む県や市は違ってもみな仲間という印象。
がっかりしたことは・・・	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの発表、持ち時間が短く十分に聞けなかったこと。 もっと交流会の時間が必要だったのでは。 若者が少なかった。
学んだことは・・・	<ul style="list-style-type: none"> 老若男女を問わず、活動されている実態をこの目で確認できたこと。 流域内ネットワークの重要性を多くの人が認識していること。
今後期待するものは・・・	<ul style="list-style-type: none"> もっと回数を重ねるように、このようなネットワークを開催してほしい。 行政と住民が連携できるような団体ももっと多くなれば良いと思います。 各団体の活動がますます活発になり、美しい河川が取り戻せることを望みます。

交流会
 参加者の皆さんに、「私の水辺の思い出」が「一番紹介したい自分の活動」について、質問シートに記入してもらい、お隣同士で紹介し合うたり、発表したりすることで、参加者同士の交流の輪を広げて頂きました。

ミニコンサート
 地元のボランティアグループ「音心の会」代表の平林幸子さんに、大正琴によるコンサートを頂きました。

活動報告・発表会
 BYスタンプラリー協賛グループなど34の市民団体の方に、日頃の活動状況に関するポスターや写真を会場内に展示して頂き、持ち時間3分という短い時間の中、全ての方に活動を報告・発表して頂きました。また、BYQが取り組んでいる各種活動の報告や、BYスタンプラリーの最多スタンプ賞の表彰式、シニアリバスクールやクリーンアップキャンペーンなどBYQが実施したイベントに参加していただいた方へのインタビューなどを行いました。

基調講演
 「水環境保全に向けたよりよい連携のあり方について」流域ネットワークに期待するもの」と題して、淀川愛好会総務・摂南大学教授の澤井健二氏にお話し頂きました。講演では水環境保全に向けた流域連携の意義と必要と共々、広域的な活動を行う上での課題として、「活動資金や人材の確保」、「市民と住民との間での感覚のギャップ」、「市民活動に対する行政の支援体制」などを挙げられ、緩やかな流域連携を目指したBYQネットワークへの期待の高さに関するお話を頂きました。

琵琶湖・淀川水系の水環境を改善するためには、市民やNPOなど多様な主体が連携して取り組むことが求められています。
 そこで、BYQ(財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構)では、BYQが取り組んでいる様々な活動を通じて、流域で水環境保全に関わる人たちが相互のより緊密な交流・連携を目指して、平成17年3月12日に「BYQネットワーク交流会2005」を摂南大学寝屋川キャンパスで開催しました。この交流会には、40を超える市民団体の方など120名以上の方々が参加し、流域内交流の輪をより一層広げることができました。



BYQネットワーク ~協賛グループの紹介~

東近江水環境自治協議会

East Shiga Water Environment Self-Governance Association



この誌面では、BYQネットワークで活躍されている市民団体にスポットを当て、その活動内容をレポートします。今回は、『東近江水環境自治協議会』の丹波道明専務理事にお話しを伺いました。



丹波道明専務理事

長命寺川を経て琵琶湖へと注ぐ内湖¹、西の湖。滋賀県蒲生郡安土町から近江八幡市にかけてのその一帯は、ヨシの群生地であり、日本有数の水郷です。

1998年、安土町と近江八幡市の行政が、西の湖の保全のために長命寺湾・西の湖環境保全協議会を発足。協議会が地域に呼びかけ、翌年、住民組織の設立準備委員会がスタートし、委員会のメンバーが中心となり、2000年7月、東近江水環境自治協議会が誕生しました。

「設立準備委員会で座長に指名された私は、まず、一人ひとりに参加理由を尋ねました。すると面白いことに、ある人は魚のこと、ある人は野の花のこと、またある人はヨシのことしか言いません。水をきれいにしたいという思いは同じでも、その視点は見事にバラバラ。一つにまとめようなどと大それたことは考えませんでした。各自で小グループをつくって活動してもらい、それらを“ゆるく”つなぐ。そのネットワークを私たちのスタイルとしたのです」と丹波さん。しかし、小グループ活動は互いに顔を見合わせているばかりでいっこうに活動が始まりません。ちょうどその頃、第5回リビングレイクス²国際会議が開催されることになり、外国のお客様を西の湖へ案内してほしいとの依頼がありました。「ちょうど十三夜でした。船着場に篝火をたき、民家に案内し、雅楽を奏で、もてなしましたところ、大変喜ばれたのです。皆が一つになって活発に動き出すきっかけとなりました。また、翌年、縁あって大蔵流狂言師の木村正雄先生に、西の湖を舞台とした環境創作狂言『琵琶の湖(うみ)』を書いていただき、湖国21世紀事業の一環として上演したことも大成功を収めました。『琵琶の湖(うみ)』は、ブラックバスやブルーギルが主役というユニークな物語で、第2作目の『琵琶の湖～その後～』と合わせ色々なところで上演されています。さらに、2003年の第3回世界水フォーラムではヨシ舟の製作・試乗、翌年にはヨシ舟で御堂筋パレードに参加するなど、東近江水環境自治協議会は小グループ活動を核に大きなイベントにも積極的に参加し、環境問題を提起してきました。

今後の活動は、「われわれの活動拠点である西の湖を美しくしたい。西の湖の水環境と景観の保全を図るためには、周囲と連携して活動することが必要です。そこで西の湖を囲む自治会やNPOと協力し、通称“西の湖自然美術館づくり”を行っています。美術館と言っても箱物を建てるものではありません。美しい西の湖を守り続け、たくさんの人に見に来てもらいたいという活動です。また一方で、ボランティアの限界を感じているのも事実。ですから今、環境コミュニティビジネスに着目しています。営利の追求ではなく、ローテクと自然をテーマに、例えばヨシの保全が進むようなビジネス。そのような新しい活動スタイルを模索しています」と丹波理事。限界は、まだまだ先のようです。

1...内湖(ないこ):琵琶湖周辺の概ね水深2m以下の大小の池や沼のこと。
2...リビングレイクス:ドイツの環境NGOである地球自然基金が主宰する湖沼の自然・環境保全に関する国際的NGOネットワークプログラムの名称。



西の湖を舞台にした環境創作狂言『琵琶の湖(うみ)』



一面のヨシを刈る



「第3回世界水フォーラム」でのヨシ舟の製作・試乗



ヨシ舟で大阪の「御堂筋パレード」に参加

BYスタンプラリーとは、協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、事務局に送付すると、素敵な景品がもらえるというもの。これまでに約800人の方が応募されています。また協賛グループは、46の市民団体と16の水関連施設で構成されています。(平成17年3月31日現在)

これからの琵琶湖・淀川流域が良くなるためには——NPO意見交換会

これからの琵琶湖・淀川流域が良くなるためには、どのようなことに取り組んでいけばいいかについて、流域で環境保全活動を行なっているNPO等市民団体(以下「NPO」)による「琵琶湖・淀川流域意見交換会～琵琶湖・淀川流域のために必要なことを考えるワークショップ～」が、平成17年1月22日(第1回目)と2月12日(第2回目)に京都リサーチパークで開催されました。

ワークショップ(Work Shop)とは、具体的な物事を詳しく検討する会議等の意味で使われていますが、最近では「自由に見解を出し合いながら、課題解決を図る、参加型の検討会」という意味に使われています。今回のワークショップでは、3班に分かれて、意見交換することになりました。

第1回目のワークショップでは、25団体のNPOや行政機関の方々、およそ40名が参加し、NPO等の市民団体の活動や経験を通じて、夢、課題などについて自由な意見交換が行なわれました。

第2回目では、30団体のNPOや行政機関の方々、約60名が参加し、前回出された課題をさらに掘り下げ、その解決には、どのようなことを具体的にやっていけばよいかについて、話し合われました。



ほら、いろんな意見が聞こえてきます。

「一人ひとりが自然を愛し、大切にしようとする社会の実現の一助になりたい」

「いろんな生き物が住める川にしたい」

「親しみやすい水辺をつくりたい」

「流域の人材・物品バンクができれば」

「若い世代への継承が…」等々。

「人、物、イベントなどの情報を収集し、だれでも見ることができる場づくりが必要だ」

「やはり行政と民をつなぐ仕組みづくりがいるのでは」

「もっと、連携強化が必要では…」などの提案が各班から発表されました。

BYQでは、話し合われた内容をとりまとめ、今後さらにNPOのみなさんと一緒により具体的な仕組みについて検討し、できるものから実施していきたいと考えています。



琵琶湖に注ぐ葉山川の河口に位置する琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター「Biyo(ピヨ)センター」。ここで行われている、河川や湖沼を浄化する実験を紹介します。

Biyoセンター

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター

実験レポート

「ヨシ群落の修復・再生に関する研究」

京都大学大学院工学研究科附属 流域圏総合環境質研究センター 田中周平 助手



田中周平助手

湖沼や河岸に広がる抽水植物であるヨシは、主に地下茎で増殖し、沿岸域に群落を形成します。この区域はエコトーンと呼ばれ、陸と水域との接点であり、環境諸条件が変化し、多種多様な動植物種を育む貴重な空間です。ヨシ群落には生物育種、水質浄化、護岸作用、景観の美化などの機能があると報告されていますが、昔に比べ面積は大きく減少しています。今回は、これらの空間の修復・再生技術に関する研究をご紹介します。



琵琶湖南湖東岸に広がるヨシ群落

ヨシ植栽実験による生育影響要因の検討

流域圏総合環境質研究センターの田中先生は、Biyoセンターの湖岸フィールドにヨシを植栽し、生育状況、植生構造、地盤高などの観察を行ってきました。その結果、植栽工法別に水深とヨシの成長速度との関係が明らかになり、琵琶湖沿岸における適切なヨシの植栽地盤高が明らかになりました。



ポット苗移植法

ポットにヨシの苗を植え、成長させた後、ポットをとって直植える方式。(左側)

土のう工法

ポット苗に土のう袋をかぶせて、袋ごと植える方式。(右側)

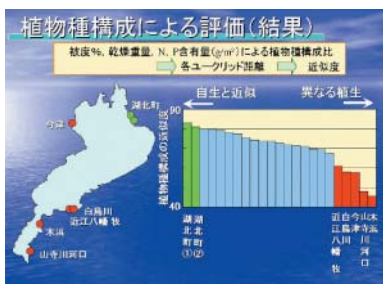


マット植栽法

ヤシガラマットに苗を植えつけて成長させたものを、マットごと土中に埋める方式。

植物種構成による再生評価手法の検討

ヨシ植栽地では、植栽後に植物社会学的競争が起こります。その結果、それぞれの生育環境に適した植物が繁茂し、群落を形成します。琵琶湖沿岸域では、ヨシ植栽後に他の植物種群落に遷移する事例が多く見られました。そこで田中先生は、自然のヨシ群落の植物種構成と、群落が成立する環境条件を調査・分析。それらの結果をもとに、過去のヨシの植栽事例を定量的に評価できる手法の開発に取り組まれています。自然再生推進法の施行により、自然環境修復の定量的な評価が求められていますが、この手法がその一助となることをBiyoセンターでも期待しています。



ジュニア リバースクール 2004

BYQチューター って？

まずはじめに、ジュニアリバースクールに参加された感想を聞かせてください。

佐藤 今回初めて参加しました。チューターの役割として、講師と参加者との間をつなぐことや子供の疑問、興味に対して子供自身が考えられるように導き、共に学習することなどの役割を頭においていたのですが、実際一緒に行動してみると、私自身が子どもに接するのが不慣れであることや、物事を伝えることの難しさを実感した1日でした。

小川 平成15・16年度と参加しましたが、子供たちの元気さ、素直さ、物覚えの良さ、一緒に来られた引率者の対応の良さに大変驚かされました。チューターの役目は、子供たちの質問・疑問にたいして『答え』を教えるのではなく、自ら調べ『答え』を導けるように助言をすることです。これは、子供に考える癖をつけると共にチューターにとって、コミュニケーション能力をつける良い取り組みだと思いました。また、子ども達を引率する中で、安全管理・時間管理といったことについても気を配らないといけないため、こういった引率に不慣れな僕にとって責任重大ですが、皆さんのおかげでなんとかこなすことができました。



子どもたちにヨシ舟の作り方を指導する佐藤さん。

チューターって大変そうですね。

佐藤 でも、説明を真剣に聞く子供の目や、いきいきとした楽しそうな目を見せてもらえたことが大変嬉しいことでした。今後もさらに知識を広げ、チューターとしての経験を積み重ね、子供たちに伝えられることを増やし、うまく伝えられるようになりたいと思いました。

この体験で、ご自身が得られたものは何でしょうか？

佐藤 何よりも自分の実力を知る良い機会となりました。

小川 質問に対して『答え』を教えるのは簡単なことですが、『答え』を発見できるようにモチベーションを持続させながら『答え』まで辿りつくように助言するというのは、想像以

私たちBYQは、琵琶湖・淀川の水環境の保全対策に取り組むため設立された組織です。琵琶湖・淀川の水環境をよりよくするためには、流域のあらゆる方々が水環境に関する情報にいつでも気軽に接することができ、共通の認識を築いていくことが大切だと考え、さまざまな活動を行っています。それらの活動に参加して下さる方とスタッフとの橋渡しをするのがBYQチューター¹です。今回は、10月に行ったジュニアリバースクール²淀川コースにチューターとして参加された佐藤佳子さんと小川芳也さんにお話を伺いました。

¹チューター(tutor)とは、英語で家庭教師や個人指導教師のことです。
²ジュニアリバースクールは、昔に比べて、川や湖との関わりが少なくなった子供たちが、琵琶湖・淀川のフィールドでの体験や、水関連施設での見学を通じて、水に関する、舟運、自然、歴史などを学習するイベントです。
詳しくはBYQのホームページでご紹介しています。
<http://www.byq.or.jp/event/junior.html>



淀川の水質を調べよう！バックテストを使って子どもたちと水質を調べる小川さん。

上に難しいことでした。また、子供と大人で興味をもつ対象が異なるということも判りました。これは、今後、事業運営に携わることがあれば大いに役に立つと思います。

最後に、今後はどのような環境に関する活動を行ってみたいですか？また、そのご予定があれば教えてください。

佐藤 身近な動植物から地球環境のことまでいろいろなことを子供たちに伝えられる“おばさん”になっていきたいと思っていますので、今後もチューターなどの活動を進めていきたいと思っています。また、活動ではありませんが、『人間生活と農業と環境』についても考えていきたいと思っています。

小川 河川環境を考えるうえで、源流域の環境の有り方はそれより下流の環境に大いに影響します。今までは、Eボートを用いて親水活動を行ってきましたがこの活動を続けつつ、源流域にある山の環境についても学びたいと思っています。

お二人とも子ども達の引率には不慣れだとおっしゃっていますが、スクール当日はテキパキと子ども達を引率してくださいました。これからもBYQのイベントにどんどん参加していただきたいと思っています。

(文中、敬称は略させていただきます)

BYQチューターに関するお問い合わせ先

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部
e-mail : biyokiko@byq.or.jp

水辺からのメッセージ 京都の上下水道

京都市の水道は、明治45年、琵琶湖第2疏水の完成とともに給水を開始しました。水源は、すべて琵琶湖・淀川水系であり、蹴上、松ヶ崎、山ノ内、新山

科の4浄水場から1日に最大95万1千立方メートルのきれいな水を送ることができ

ます。また、京都市の下水道は、昭和5年、失業応急事業として開始しました。鳥羽、吉

祥院、伏見、石田の4水環境保全センターで1日に最大142万立方メートルの水を処理することができ

ます。処理された水は、すべて淀川水系に放流しています。

今回は「京都市水共生プラン」と「琵琶湖疏水記念館」について紹介させていただきます。

京都市水共生プラン

京都市では、平成15年3月に京都市を中心に滋賀、大阪を結んで開催された第3回世界水フォーラムを踏まえた継続的な取組として、市民の皆さんの意見を募集し、検討委員会でまとめられた提言を受け、都市型水害の軽減や健全な水循環の改善を図ることなどを目的として、平成16年3月に京都市水共生プランを策定しました。

このプランでは、5つの基本方針を掲げ、流域における貯留・浸透対策、下水高度処理の推進、透水性舗装による雨水浸透の促進のほか、町家の井戸などの身近な水辺空間の保全・創出、十石舟運航などの伝統的な水文化の再生といった、より具体的な計画目標を実現する検討・取組事項を掲げております。今後、具体的な行動計画の策定に向け、市民の皆さん、NPO、事業者、行政等の情報の共有化、役割分担の明確化を図るとともに、若い方たちが関わりやすい環境づくりに努めて参ります。



琵琶湖疏水記念館



哲学の道

琵琶湖疏水記念館

京都市左京区南禅寺草川町にある「琵琶湖疏水記念館」は、琵琶湖疏水竣工100周年を記念して、琵琶湖疏水の意義を多くの人に伝え、先人の偉業を顕彰するとともに、将来に向かって発展する京都の活力の源となることを願って、市民の協力のもとに建設した施設です。

琵琶湖疏水の計画から竣工までを、先人たちの遺品や、日本最初の商業用水力発電所である蹴上発電所で初期に運転されたルトン水車とスタンレー発電機の実物などでたどることが出来ます。また、中庭からは、琵琶湖疏水の流れが楽しめるインクライン、南禅寺、哲学の道や岡崎界隈への散策にも便利であることから、延べ約130万人の方が訪れています。京都市にお越しの際は、BYスタンプラリーに参加している琵琶湖疏水記念館に是非お立ち寄りください。

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 賛助会員(50音順)

計24社(平成17年3月1日現在)

(株)アイ・エヌ・エー関西支店、(株)アクアテルス琵琶湖事業部、(株)和技研、(株)環境科学コーポレーション、近畿技術コンサルタンツ(株)、(株)クリアス、(株)建設環境研究所、(株)建設技術研究所大阪支社、国際航業(株)関西支社、国土環境(株)、滋賀県下水道保全事業協同組合、(株)修成建設コンサルタント、(株)新洲、帝人エコ・サイエンス(株)、(株)東京建設コンサルタント関西支店、東洋電化工業(株)、(株)西日本技術コンサルタント、(株)日建設シビル、(株)日水コン、日本建設コンサルタント(株)大阪支社、日本工営(株)大阪支店、(株)ニュー・ジャック、パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社、八千代エンジニアリング(株)大阪支店



財団法人 **琵琶湖・淀川水質保全機構**
Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒541-0041 大阪市中央区北浜1丁目1番30号 横井北浜ビル3階

TEL 06-6202-1267 FAX 06-6202-1317

E-mail biyokiko@byq.or.jp <http://www.byq.or.jp/>

広告募集

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌「BY BLUE」に広告掲載を希望される水環境関連の企業・団体を募集しています。掲載料等のお問い合わせやお申し込みは、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構・企画開発部まで。



古紙含有率100%の再生紙を使用しています。



このパンフレットは大豆油インキを使用しています。

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼水の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もって潤いのある地域社会の形成と、関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

「BY BLUE」とは、琵琶湖(BIWAKO)・淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく、という願いから名づけました。